

良質堆肥の選び方

その2 堆肥の熟度を見よう



枯れ落ち葉の下、土の表面に張った根と根毛

枯れ枝や落ち葉をソッとよけると、白い根と根毛がいっぱいに広がっている。こんな光景をしばしば目にします。左の写真は、土の中が固くしまって保水性・通気性が悪く肥料も濃すぎるために、根が、水分と酸素、肥料濃度など環境条件のよいところを求めて、枯れ葉におおわれた土壌表面近くへ集まってきたものです。

● 完熟・未熟・生材料で根が大変化

このように根が好きな環境、嫌いな環境に、堆肥の質がどう影響するのでしょうか。下の写真は、熟度（微生物による分解・発酵の進み方の程度）の異なる堆肥で発根テストをしたものです。分解・発酵が進んだ完熟堆肥では、根がまっすぐ伸び根毛がきれいに出ています。発酵途中の未熟堆肥では根が曲がり根毛が少なくなり、分解・発酵がまったく進んでいない乾燥鶏糞では根腐れを起こし、生のおがくずでは根毛がまったく見られません。



分解・発酵がよく進んだ堆肥
(窒素1.1%、C/N比18.1)



発酵途中の未熟堆肥
(窒素0.42%、C/N比29.8)



乾燥鶏糞 (窒素2.4%、C/N比6.1)



生のおがくず (窒素0.1%、C/N比33.5)

4つの堆肥の窒素含量とC/N比（炭素含量÷窒素含量）を示しましたが、この数字が堆肥の熟度を知るめやすになります。根が好んで集まり、土壌微生物の活動もさかんになる、分解・発酵がよく進んだ堆肥は、窒素含量が1%前後、C/N比が15~20くらいとされ、C/N